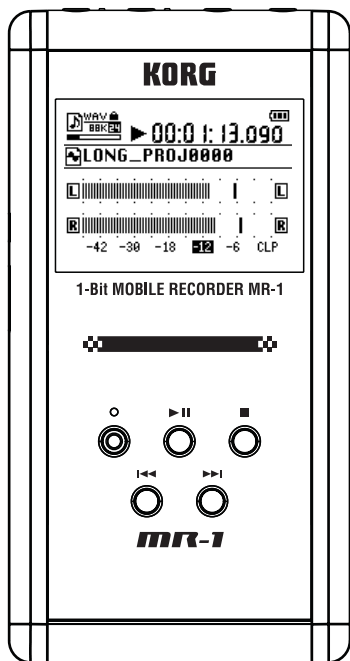
# 1-Bit MOBILE RECORDER

# MR-1

# 取扱説明書

Ⓙ③

# 安全上のご注意

**ご使用になる前に必ずお読みください**

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

## 火災・感電・人身障害の危険を防止するには

### 図記号の例

| | |
|---|---|
|  | △ 記号は、注意（危険、警告を含む）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。 |
|  | ⃠ 記号は、禁止（してはいけないこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。 |
|  | ● 記号は、強制（必ず行うこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。 |

**以下の指示を守ってください**

## ⚠警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、
死亡や重傷を負う可能性が予想されます

- **ACアダプターのプラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。**
- **ACアダプターのプラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。**
  感電やショートの恐れがあります。
- **本製品はコンセントの近くに設置し、ACアダプターのプラグへ容易に手が届くようにする。**

- **次のような場合には、直ちに電源を切ってACアダプターのプラグをコンセントから抜く。**
  ○ ACアダプターが破損したとき
  ○ 異物が内部に入ったとき
  ○ 製品に異常や故障が生じたとき
  修理が必要なときは、コルグ・サービス・センターへ依頼してください。

- **本製品を分解したり改造したりしない。**

- **修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれてること以外は絶対にしない。**
- **ACアダプターのコードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、ACアダプターのコードの上に重いものをのせない。**
  コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- **大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。**
  万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- **本製品に異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）を入れない。**
- **温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）で使用や保管はしない。**
- **振動の多い場所で使用や保管はしない。**
- **ホコリの多い場所で使用や保管はしない。**

- **風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。**

- **雨天時の野外のように、湿気の多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管はしない。**
- **本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。**
- **本製品に液体をこぼさない。**

- **濡れた手で本製品を使用しない。**

## ⚠注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、
傷害を負う可能性、または物理的損害が発生する可能性があります

- **正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。**
- **ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。**
  ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
- **外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。**
- **ACアダプターをコンセントから抜き差しするときは、必ずプラグを持つ。**

- **長時間使用しないときは、ACアダプターをコンセントから抜く。**

- **付属のACアダプターは、他の電気機器で使用しない。**
  付属のACアダプターは本製品専用です。他の機器では使用できません。
- **他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしない。**
  本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。

- **スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。**
  故障の原因になります。
- **外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーは使用しない。**
- **不安定な場所に置かない。**
  本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。
- **本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。**
  本製品が転倒または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。

## 本製品のお取り扱いについて

本製品には、精密機器が搭載されているため、以下の事柄を十分に注意してお取り扱いいただかないと、故障の原因となります。

- 本製品に振動、衝撃を与えないでください。
  電源がオンのときに振動や衝撃が加わると、ハードディスク上のデータが失われることがあります。また、ハードディスクの損傷、または製品内部を損傷するなどの、故障の原因になります。特に、ハードディスクがアクセス中のときは振動、衝撃に非常に弱いので、十分に注意してください。
- 冬季の屋外や夏季の直射日光に当たる場所のように、極端に温度の低いまたは高い場所で、使用や保管をしないでください。また、温度差が激しい場所へ、本製品を移動することは避けてください。
  温度差が生じた場合、ハードディスク・ドライブ、または製品内部に、水滴がつくことがあります。そのまま使用すると故障の原因となりますので、数時間放置してから使用を開始してください。
- 極端に湿度の高い場所では使用、保管しないでください。
- ほこりや煙が多い場所では使用、保管しないでください。

### 内蔵ハードディスクの使用上の注意事項

- 電源のオンとオフを、頻繁に繰り返さないでください。
  電源をオンにすると、ハードディスク・ドライブへのアクセスが開始されます。アクセス中に電源をオフにすると、ハードディスク上のデータが失われたり、ハードディスク・ドライブや製品内部を損傷するなどの故障の原因になります。
  電源をオフにした後、再度オンにする場合は、10秒ほど待って電源を入れてください。

**操作上のミス、停電、あるいは事故的な電源供給停止によってハードディスクが破損した場合は、保証期間内であっても有償交換になることがあります。**

## データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがあります。大切なデータは、あらかじめ他のメディア等へセーブしておいてください。データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

## 著作権について

本製品は、あなたが著作権保有者であるか、著作権の保有者から複製許可を得ている素材を使用することを目的としています。あなたが著作権を所有していない、または著作権保有者から複製許可を得ていない場合は、著作権法の侵害となり、損害賠償を含む保証義務を負うことがあります。あなた自身の権利について不明確なときは、法律の専門家に相談してください。

＊ 記載されているすべての製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

DSD Direct Stream Digital TM

# 目次

# はじめに

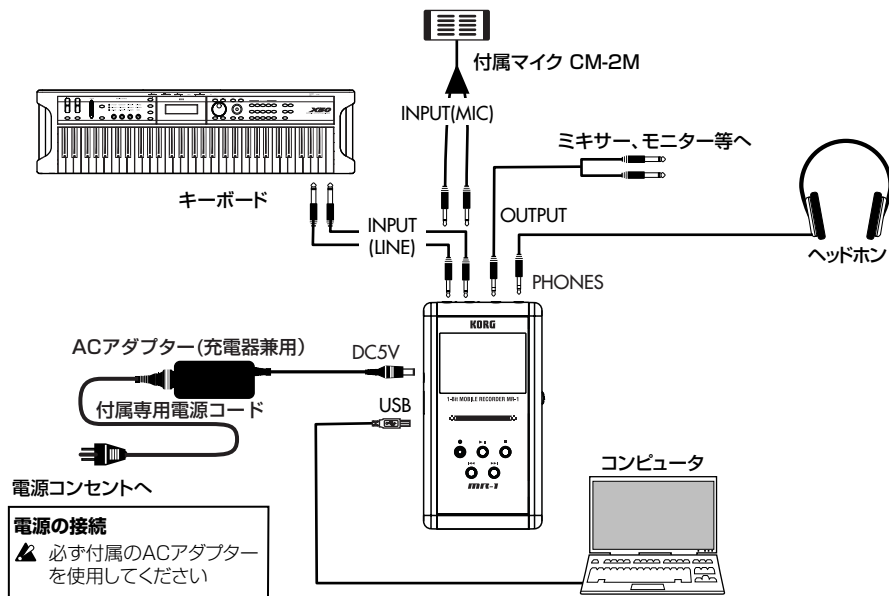
このたびは、コルグ･1ビット･モバイル･レコーダー MR-1をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。本機を末永くご愛用いただくためにも、取扱説明書をよくお読みになって正しい方法でご使用ください。また、取扱説明書は大切に保存してください。

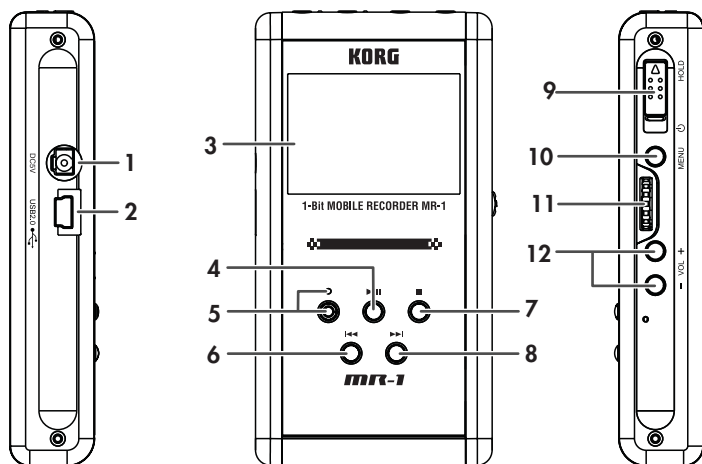
## 特長

MR-1は、CD(16bit/44.1kHz)、DVDオーディオ･フォーマット(24bit/192kHz)および、SACD（スーパー･オーディオCD）クオリティーのフォーマット(1bit/2.8MHz)などの録音･再生が出来る、超高音質ステレオ･ポータブル･レコーダです。

MR-1は充電池を内蔵しているので、手軽にフィールドでの高音質のレコーディングが行えます。もちろん、長時間の録音や据え置き型のレコーディング機器として使用するためのACアダプターも付属しています。
録音したデータは、USBストレージの機能を使ってコンピュータに取り込んだり、逆にコンピュータから聞きたい音楽データを転送したりすることが、簡単に行うことができます。

また、コンピュータに録音したファイルを取り込んだり、同梱のオーディオ･フォーマット変換アプリケーション “AudioGate” を使って、フォーマットの変換や編集をすることができます。

## 接続例

# 各部の名称と働き

## フロント、サイド・パネル

**1. DC 5V端子**
付属のACアダプター(充電器兼用)を接続します。

**2. USB端子**
USBケーブルを使用してコンピュータと接続します。

**3. ディスプレイ**
録音、再生時のレベル・メーターやカウンター、プロジェクト(→p.13)/ファイルの情報や、パラメーターが表示されます。

**4. 再生/ポーズ・ボタン**
録音、再生を開始します。録音、再生中に押すとポーズ(一時停止)になります。

**5. 録音ボタン、録音LED**
ボタンを押すと録音待機になり、録音LEDがゆっくり点滅します。録音中は録音LEDが早い点滅に変わります。

**6. 早戻しボタン**
プロジェクト(→p.13)/ファイルの選択、早戻し等に使用します。

**7. 停止ボタン**
録音、再生を停止させます。

**8.早送りボタン**
プロジェクト(→p.13)/ファイルの選択、早送り等に使用します。

9. 電源ボタン(ホールド機能付き)

本機のオン、オフ(シャットダウン)を行います。HOLD側にスライドすることで、不用意にボタンやP-ダイヤルをさわったときの誤動作を防ぎます。

10. メニュー・ボタン

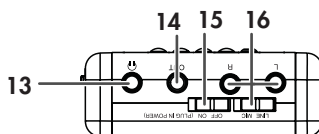
ディスプレイに表示させる情報やパラメーターを選ぶメニュー・リスト(MENU)画面を表示します。押すたびにレベル・メーター画面と入れ替わります。また、編集画面から1つ前の画面に戻るときにも使用します。

11. P-ダイヤル

プッシュ・スイッチの機能が付いたダイヤルです。操作方法は次ページ「画面と操作」をご覧ください。

12. ボリューム・ボタン

ヘッドホン端子と出力端子の音量を調整します。

## トップ・パネル

13. ヘッドホン端子(ステレオミニ)

ヘッドホンを接続します。

14. 出力端子(ステレオミニ)

音声を出力します

15. プラグイン・パワー・スイッチ

プラグイン・パワー・タイプのマイクを使用するとき電源(+3V)を供給するスイッチです。付属のマイク(CM-2M)を使用するときはオンにします。

⚠ プラグイン・パワー・タイプではないマイクやライン入力時は必ずオフにしてください。オンのまま使用すると接続したマイクやライン入力機器を破損する恐れがあります。

16. 入力スイッチ/入力端子L、R

入力端子L、Rに接続する機器の入力レベルに合わせてMIC(マイク入力)、LINE(ライン入力)を切り替えます。

バランス、アンバランス型のどちらも使用することができます(→p.15)。

# 画面と操作

## レベル・メーター画面とメニュー・リスト（MENU）画面

本機は電源をオンにしたときは、ディスプレイにレベル･メーター画面が表示されます。

ディスプレイがレベル･メーター画面のとき、メニュー･ボタンを押すと、各種の設定や情報画面に進むメニュー･リスト（MENU）画面が表示されます。
各種の設定は、この画面からP-ダイヤルを使って行います。

ディスプレイがメニュー･リスト（MENU）画面のときメニュー･ボタンを押すとレベル･メーター画面に戻ります。このようにメニュー･ボタンを押すたびにメニュー･リスト（MENU）画面とレベル･メーター画面に切り替わります。

ディスプレイがレベル･メーター画面のとき、P-ダイヤルを押すとメーターの設定画面になります。ここで、レベル･メーター画面に表示させる内容を設定します。設定が終わったらメニュー･ボタンを押して、レベル･メーター画面に戻ります。

## パラメーターの選択、値の設定

本機では、P-ダイヤルを回して押す（プッシュする）ことでパラメーターの選択、値の設定などを行います。なお、画面では、P-ダイヤルを回すと選択している項目が、選択アイコン“▶”または“▸”の移動で確認できます。
“▶”は、P-ダイヤルを押すと、新たな設定画面があることを示しています。
パラメーターの選択、値の設定はこの選択アイコンをP-ダイヤルを回して移動、または値を変化させ、P-ダイヤルをプッシュすることで確定になります。この一連の操作を本機では「P-ダイヤルで選択確定する」と表現します。

選択確定したときにパラメータによっては、新たな設定画面が表示されたり、チェック･ボックスにチェックが入ったりします。

新たな設定画面で設定をした時は、メニュー･ボタンを押して、1つ前の画面に戻ります。

# 基本的な使い方

## 1. 電源の準備

本機は移動時や野外使用時に便利な充電池を内蔵しています。AC電源が確保できる場所では、付属のACアダプターで使用することもできます。

note ACアダプターを接続すると、電源のオン、オフに関係なく充電が始まり、満充電になると自動的に充電を終了します。

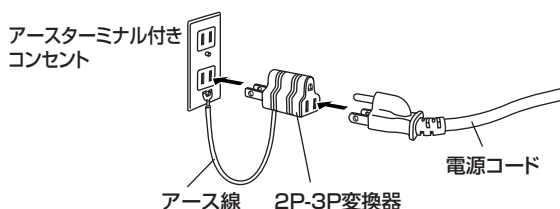
### AC アダプターで使用する場合

付属ACアダプターの電源コードのプラグには、アース端子がついています。感電と機器の損傷を防ぐためにアース接続を確実に行って、コンセントに接続してください。

電源は必ずAC100Vを使用してください。

#### 接地コンセントに接続する場合

ACアダプターの電源コードのプラグを直接コンセントに差し込んでください。

#### アースターミナル付きコンセントに接続する場合

1. **ACアダプターの電源コードのプラグに2P-3P変換器を取り付けます。**
2. **2P-3P変換器のアース線を、アースターミナル付きコンセントに接続します。**
3. **2P-3P変換器をコンセントに差し込んでください。**

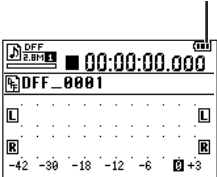
アースターミナル付きコンセントでは、必ずアース端子を先に接続してから、コンセントにプラグを差し込んでください。コンセントを外す場合は、必ずプラグを先に抜いてからアースを外してください。
接続方法がわからないときは、コルグお客様相談窓口にご相談ください。

## 充電池で使用する場合

本機は充電池を内蔵しています。購入時は、充電されていませんので、充電をしてからお使いください。

本機に内蔵されているリチウムイオン充電池はリサイクルが義務付けられています。本機を廃棄する場合には、カスタマーサポートにお送り下さい。

### 充電方法

コンセントに差し込んだ付属のACアダプターをDC5V端子に接続します。

note 本機の電源がオフの状態でも充電は行えますが、充電の状態を確認しながら充電する場合は、電源をオンにしてください。いずれの場合も、満充電になると自動的に充電を終了します。

note 本機は日時の設定（→p.28）をすると、録音時に正確な日時情報を付加することができます。ただし、充電池で電源がオンできない状態のまま2～3日放置すると、日時の設定はリセットされるので充電後、設定をしなおしてください。

### 電池残量表示

レベル･メーター画面の電池アイコンで電池のおよその残量、充電中が判断できます。
ACアダプターを使用せずバッテリー･ロー表示のまま再生や録音を続けると、充電池の容量がなくなると自動的にシャットダウン画面になり、数秒後にオフになります。

note 充電が完了すると電池アイコンは［充電中アイコン］から［フルアイコン］に変わります。

### 充電池の利用可能時間

利用可能時間は、電池の特性上、気温や湿度によって左右されます。また、録音や再生の間隔や、プロジェクト/ファイル･フォーマットによって異なります。

連続録音再生時間

2.5時間（WAV、44.1kHz/16bit）～2時間（DFF、DSF、WSD）

※LCDバックライト･オフ、気温20℃、湿度50%時

### 充電池の寿命

充電池は消耗品です。バッテリー･ロー表示になるまでの時間が極端に短くなった場合は、充電池の寿命が考えられます。本機の充電池はお客様が交換することができませんので、コルグ･サービス･センターに連絡の上、充電池の交換（有償）をご相談ください。

極端に気温の低い場所（0℃以下）で使用すると、一時的にバッテリー･ロー表示になるまでの時間が短くなりますので、ご注意ください。

# 2. モニター機器の接続

ヘッドホン端子にステレオ・ヘッドホンを接続します。音量はボリューム・ボタンで調整します。モニター機器にを接続するときは、ステレオ・ケーブル（ミニ）をOUTPUTに接続します。

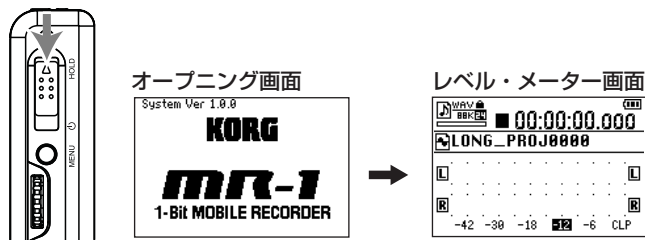
ヘッドホンを接続しても、出力端子からの音声はカットされません。

note マイク入力録音を行うときは、ハウリングを押さえるために、ヘッドホンの利用をおすすめします。

# 3. 電源のオン、オフ

本機はハードディスクを搭載するコンピューターと同等の精密機器です。
電源のオン、オフには、これから説明する手順を必ず守って行ってください。

## 電源オン

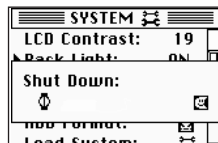
電源ボタンを押し下げてください。オープニング画面が表示された後、レベル・メーター画面が表示されます。

充電池使用時に、電源が入らない場合には、電池残量が不足しています。ACアダプターを接続して充電を行ってください。

note ACアダプターで使用しているときでも、バッテリー・フルになってないときは、充電が自動的に行われます。

## 電源オフ

電源ボタンを下に2秒以上押してください。シャットダウン画面が表示され、数秒後に自動的にオフになります。

### オート・シャットダウン機能

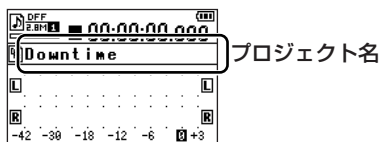
本機はレコーダを停止してから、一定時間何も操作をしないと自動的にシャットダウン画面になり、数秒後にオフになります（→p.27）。

# 4. デモ・プロジェクトの再生

本機にはDFF(DSDIFF)フォーマットで録音された、高音質、高品位なデモ･プロジェクトが入っています。これを再生してみましょう。

### プロジェクトとは

本機で録音をすると、オーディオ･ファイルとプロジェクト･ファイル(プロテクトやマーク情報など)が作成されます。この2つのファイルを、まとめたものを **"プロジェクト"** と呼び、本機の操作上は1つのオーディオ･ファイルのように操作することができます。(→p.44「ハードディスクの構成とファイル」参照)

## 再生する

電源を入れたら、レベル･メーター画面に上部にデモ･プロジェクト名が表示されているのを確認して、再生/ポーズ･ボタンを押します。
本機で録音したデモ･プロジェクトが再生されます。

note デモ･プロジェクト以外が表示されているときは、18ページの「再生するプロジェクト/ファイルを選ぶ」を参照して、デモ･プロジェクトを選んでください。

## 一時停止（ポーズ）する

再生中に再生/ポーズ･ボタンを押します。その場所で一時停止し、もう一度、再生/ポーズ･ボタンを押すと、停止位置から再生を再開します。

## 再生を止める

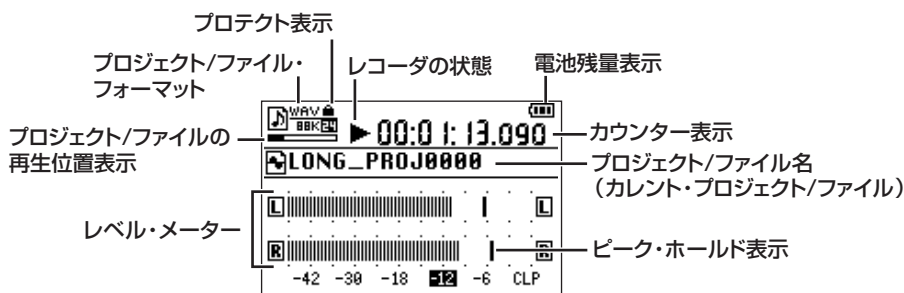
再生中に停止ボタンを押します。
次に再生/ポーズ･ボタンを押すと、現在選んでいるプロジェクト/ファイルの先頭から再生を開始します。

## 再生中に聞きたい場所を探す

再生中は、早戻しボタンを押している間だけ、プロジェクト/ファイルの前方向に移動し、離すとその位置から再生を始めます。また、早送りボタンを押している間だけ、プロジェクト/ファイルの後方向に移動し、離すとその位置から再生を始めます。
なお、停止/一時停止時は、早戻し、または早送りボタンを押している間だけ、移動して離すとその位置で停止/一時停止します。

note プロジェクトにマークを付けることで、すばやく移動することもできます。(→p.21)

# 5. レベル・メーター画面の表示

電源をオンにするとディスプレイには、レベル・メーター画面が表示されます。また、この画面はメニュー・リスト（MENU）画面のときにメニュー・ボタンを押しても表示することもできます。
この画面では、本機の動作状態や録音再生フォーマットなどを確認する事ができます。

### プロテクト表示

カレント・プロジェクトにプロテクトがかかっているときに、鍵マークが表示されます。オフのときは表示はありません（→p.29）。

### プロジェクト / ファイル・フォーマット

カレント・プロジェクト/ファイルのフォーマットが表示されます（→p.36）。

### レコーダーの状態

現在のレコーダーの状態が、録音（●）、再生（▶）、停止（■）などのシンボルで表示されます。

### 電池残量表示

電池の残容量がアイコンで表示されます。

### プロジェクト・ファイルの再生位置表示

カレント・プロジェクト/ファイルの全体の長さに対して、現在カウンター数値の位置がどの当たりかをグラフ表示します。

### レベル・メーター

入力レベルやモニター・レベル音声などを確認ます。

### カウンター表示

カウンターに時間表示、または残量表示をします（→p.24）。

### プロジェクト / ファイル名（カレント・プロジェクト / ファイル）

現在選ばれているプロジェクト/ファイル名が表示されます。

### ピーク・ホールド表示

入力レベルやモニター・レベル音声などを調整するときに、Meter/Counter画面の “Meter Peak Hold” を長く設定すると、確認しやすくなります（→p.24）。

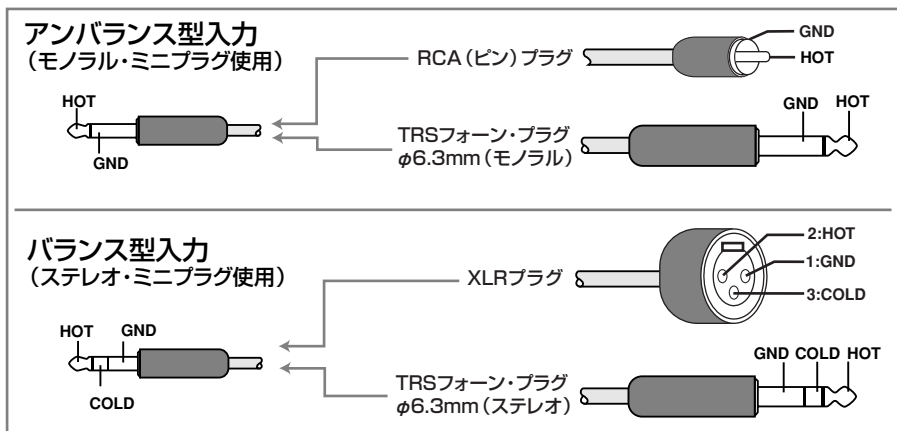
# 6. 録音

本機は録音したときに、プロジェクトの管理がしやすいように、自動的に日時情報が付加されます。

note 本機は日時の設定（→p.28）をすると、正確な日時情報を付加することができます。ただし、充電池で電源がオンできない状態のまま2〜3日放置すると、日時の設定はリセットされるので充電後、設定をしなおしてください。

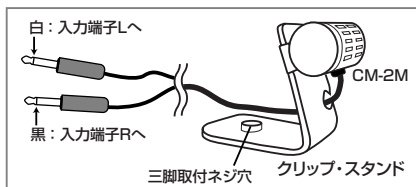
## 録音機材の選択

付属のマイク（CM-2M）を使って、手軽に録音することができるほか、市販のマイクを使用したり、キーボードや音響機器などの高い出力レベルものも接続して録音することができます。

なお、入力端子にバランス型の機器を接続するときは、ステレオ・ミニプラグを、アンバランス型の機器を接続するときは、モノラル・ミニプラグを使用します。

### マイク入力録音

入力スイッチをMICにします。録音レベル調整（→p.16）をしてもレベルが低いときは、マイク・プリ・アンプ（別売）を使用してください。

#### 付属のマイク（CM-2M）を使用する

マイクのプラグに白い帯があるのを入力端子Lに、黒い帯があるのは入力端子Rに接続します。必要に応じて、付属のクリップ・スタンドを使用してください。
CM-2Mはプラグイン・パワー・タイプです。使用するときは、プラグイン・パワー・スイッチをオンにしてください。

### ライン入力録音

入力スイッチをLINEにします。録音レベル調整（→p.16）をしてもレベルが低いときは、入力スイッチをMICにしてください。

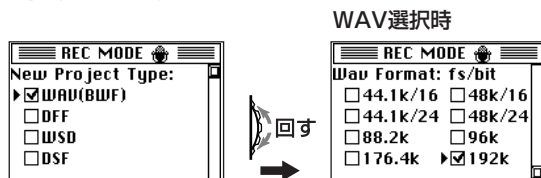
## 録音フォーマットの選択

録音するフォーマット(形式)を選択します。録音する毎に、選択している録音フォーマットで新しいプロジェクトが作成されます。

note 初期設定では、WAVの44.1kHz、16bitになっています。

1. **メニュー・ボタンを押して、メニュー・リストから"REC MODE"をP-ダイヤルで選択確定します。**
   録音モード(REC MODE)設定画面が表示されます。

2. **P-ダイヤルでプロジェクト・タイプ(Project Type)を選択確定します。**
   選択確定したプロジェクト・タイプのチェック・ボックスにチェックがつきます。
   WAV(BWF)、DFF、DSF、WSDの中から選びます。各タイプの詳細は、36ページ「プロジェクトの録音フォーマット」をご覧ください。

3. **WAV(BWF)にチェックをつけたときは、P-ダイヤルでWav Format : fs/bit設定のビット数とサンプリング周波数を選択確定します。**

4. **録音モードの設定が終わったら、メニュー・ボタンを押して、メニュー・リスト画面に戻り、もう一度メニュー・ボタンを押してレベル・メーター画面に戻ります。**

## 録音レベルの調整

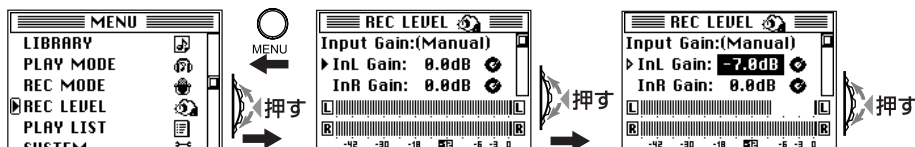
録音レベルの調整を行います。本機には、手動でゲインを設定するマニュアルと、入力レベルの大きさに合わせてゲインを自動的に可変するオートがあります。
工場出荷時はマニュアルに設定されています。オートを選び、細かな設定をするときは19ページ「録音レベルのオート設定を変更する」をご覧ください。

1. **録音ボタンを押して、録音待機状態にします。**
   録音LEDがゆっくり点滅します。

2. **メニュー・ボタンを押して、メニュー・リストから"REC LEVEL"をP-ダイヤルで選択確定します。**
   録音レベル(REC LEVEL)設定画面が表示されます。

3. **画面にInput Gain:（Manual）が表示されているのを確認します。**
表示されていないときは、P-ダイヤルを回して表示させます。

4. **P-ダイヤルでInL Gainを選択確定します。**
このとき選択アイコンが、"▶"から"▷"に変わり、入力端子Lのゲインの値が、反転表示になります。

5. **P-ダイヤルで、ゲインの値をレベル・メーターを見ながら選択し、P-ダイヤル（または、メニュー・ボタン）を押して、入力端子Lのゲインの設定を終わります。**
このとき選択アイコンが、"▷"から"▶"に変わります。
目盛りの0を超えないように調整します。

6. **P-ダイヤルで同様に入力端子Rのゲインの値を選択確定します。**

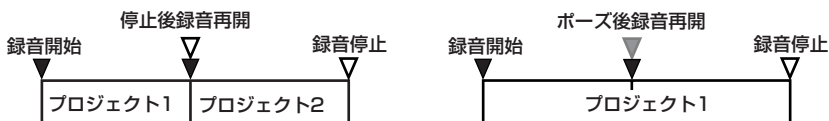
7. **録音レベルの設定が終わったら、メニュー・ボタンを押して、メニュー・リスト画面に戻り、もう一度メニュー・ボタンを押してレベル・メーター画面に戻ります。**

## 録音開始、終了

本機は、録音するたびにプロジェクトと呼ばれるオーディオ・ファイルと、その設定ファイルを含むフォルダが次々に作られていきます。このときフォルダに自動的に名前が付けられます。（→p.45）
なお、この名前は録音終了後リネームすることができます（→p.24）。
本機の操作上は、このプロジェクト・フォルダ単位でオーディオ・ファイルと同じように認識されます。

1. **録音待機状態から録音を開始するには、再生/ポーズ・ボタンを押します。**
録音LEDの点滅がゆっくりから早くに変わります。

2. **録音を一時停止するときは、再生/ポーズ・ボタンを押し（録音LEDがゆっくり点滅）、再開するときは、もう一度再生/ポーズ・ボタンを押し（録音LEDが早く点滅）ます。**
録音中に一時停止をしても、新たなプロジェクトにはならず、1つのプロジェクトになります。

3. **録音を終了するには、停止ボタンを押します。**
録音LEDが消灯します。

# 7. こんなときは（録音再生）

## 再生するプロジェクト / ファイルを選ぶ

早戻し、早送りボタンやP-ダイヤルで、再生するプロジェクト/ファイルを選ぶことができます。ただし、再生モード（→p.31）に“Current Proj/File”を選んだときは、早戻し、早送りボタンでの選択はできません。

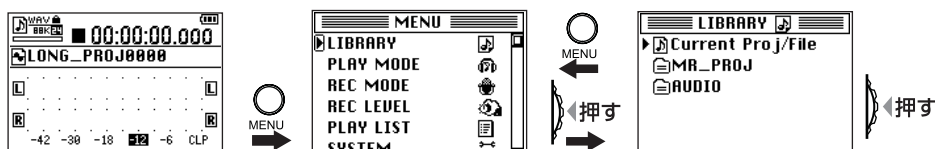
note 電源オン時には、最後に選んでいたプロジェクト/ファイルが選ばれます。

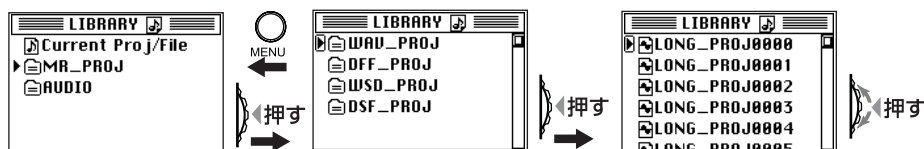
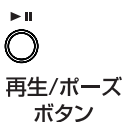
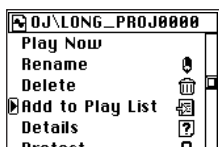
### 早戻し、早送りボタンで選ぶ

再生、停止中に現在選んでいるプロジェクト/ファイルの後にあるものを選ぶときは、早戻しボタンを、前にあるものを選ぶときは、早送りボタンを押します。

### P- ダイヤルで選ぶ

1. **メニュー・ボタンを押して、メニュー・リスト（MENU）画面から“LIBRARY”をP-ダイヤルで選択確定します。**
   ライブラリー選択（LIBRARY）画面が表示されます。

2. **“Current Proj/File”に選択アイコンが付いているので、現在選んでいるプロジェクト/ファイルが含まれるフォルダ内の他のプロジェクト/ファイルを選ぶときは、そのままP-ダイヤルを押します。**

   “MR_PROJ”フォルダには、本機で録音したファイルがフォーマットごとにフォルダ分けされています。順番にフォルダを選択確定して、プロジェクトを選びます。

   “AUDIO”は本機以外の機器で作成されたオーディオ・ファイルが入ったフォルダです。

3. **現在選んでいるプロジェクト/ファイルに選択アイコンが付いているので、P-ダイヤルでプロジェクト/ファイルを選択確定します。**
   ディスプレイに、カレント・ファイルの編集画面が表示されます。

4. 再生ボタンを押して選んだプロジェクト/ファイルの演奏を開始します。
   ファイル編集画面の "Play Now" をP-ダイヤルで選択確定して、演奏を開始することもできます。

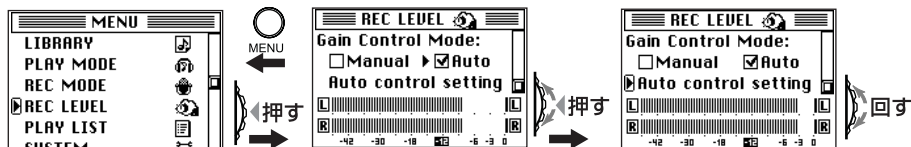
## 録音レベルのオート設定を変更する

録音レベルは録るものの音声レベルが予測できるときは、マニュアル設定が便利ですが、音声レベルが極端に上下するものや、意図的にダイナミックレンジを抑えた録音をするときは、オート設定を使用します。

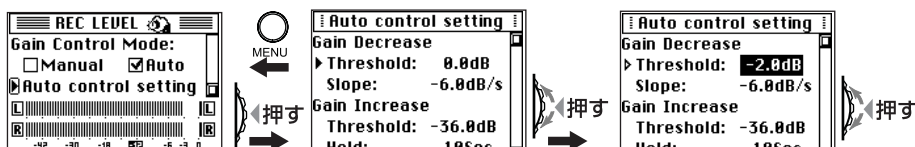
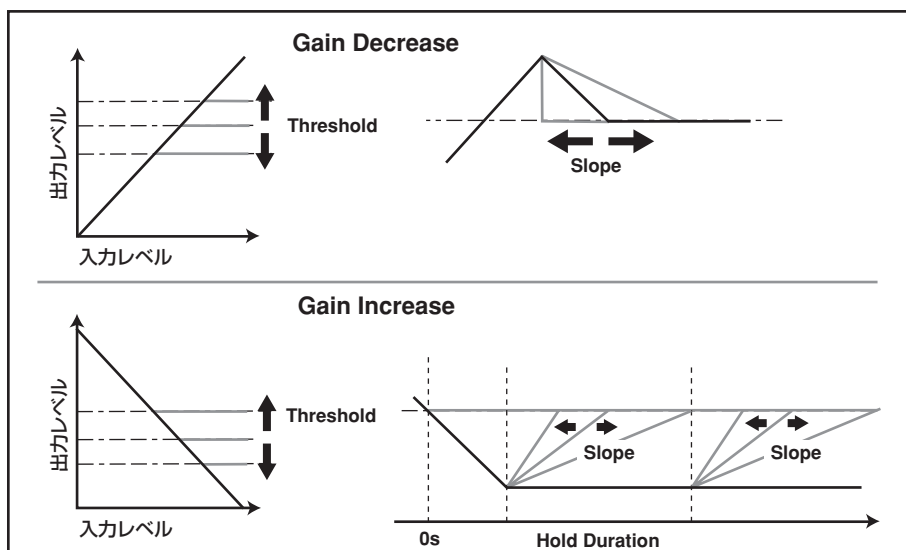
note このオート設定は、入力L、Rにリンクして録音レベルを自動調整します。

1. メニュー・ボタンを押して、メニュー・リストから "REC LEVEL" をP-ダイヤルで選択確定します。
   録音レベル（REC LEVEL）設定画面が表示されます。

2. P-ダイヤルを回して、Gain Control Modeの "Auto" を選択確定します。

3. オート設定を変更するときは、P-ダイヤルでAuto control Settingを選択確定します。
   オートセッティング（Auto control Setting）画面が表示されます。

4. P-ダイヤルで設定内容を選択確定します。
   このとき選択アイコンが、"▶" から "▷" に変わり、設定の値が反転表示になります。

5. P-ダイヤルを回して、値を選択してから、P-ダイヤル（または、メニュー・ボタン）を押し確定します。
   このとき選択アイコンが、"▷" から "▶" に変わります。

   note Gain Control Modeが "Manual" のままでもAuto control settingを選択確定することができますが、"Auto" を選択確定した時点でセッティングが有効になります。

5. 設定が終わったらメニュー・ボタンを押して録音レベル（REC LEVEL）設定画面に戻ります。
画面の“<- Back”をP-ダイヤルで選択確定して戻ることもできます。

## Gain Decrease（レベル抑圧）

**Threshold** (－24.0 ～ 0.0dB、OFF /0.5dB 刻み 49 段階 :初期値 0.0dB)
設定したしきい値を超える信号が入ってきた場合に、入力信号をそのしきい値まで下がるようにゲインを減少させます。

**Slope** (－24.0 ～ －0.5dB/s 0.5dB 刻み 48 段階：初期値 －6.0dB/s)
上記の“Threshold”の値を超えた際にゲインの調整までの時間（エンベロープ設定）を設定します。

## Gain Increase（レベル昇圧）

**Threshold** ( OFF、－36.0 ～ 0.0dB /0.5dB 刻み 72 段階 :初期値 －36.0dB)
**Hold** ( 1 ～ 30s /1 秒刻み 30 段階 ：初期値 10s )
“Hold”で設定した時間、“Threshold”の値を超える信号が入って来ない場合に、入力信号を“Slope”で設定した値でゲインを上げていきます。

**Slope** ( 0.5 ～ ＋24.0dB/s 0.5dB 刻み 48 段階：初期値 ＋6.0dB/s)
“Threshold”の値を超えたときに設定した増加量でゲインを上げていきます。

## プロジェクト内の移動（マークを使う）

ライブや練習等を連続して長時間録音した場合、曲間や任意の演奏開始位置に移動するには、音を聞きながら移動するか、カウンターの時間を目安に早送り、早戻しする方法があります。

本機は、録音または録音したプロジェクトの再生中にマークを登録すると、再生時にすばやく登録位置に早送り、早戻しボタンで移動することができます。

### マークの登録

マークを登録するには、録音または再生中に録音ボタンを押します。
マークは100個まで登録することができ、登録後にマークの編集をすることができます。

note プロジェクトの先頭と、録音中にポーズ後録音を再開した位置に自動的にマークが登録されます。また、録音中にデータ・サイズが1GBを超えて分割ファイルが生成（→P.45）された場合も、分割の先頭位置に自動的にマークが登録されます。

マークを登録できるのは、本機で録音したプロジェクトだけです。

### マーク・リストの確認

プロジェクト内に登録されたマークの時刻順のリストを表示します。

**1. メニュー・ボタンを押して、メニュー・リスト（MENU）画面から "LIBRARY" をP-ダイヤルで選択確定します。**
ライブラリー選択（LIBRARY）画面が表示されます。

**2. P-ダイヤルでマーク・リストを確認するプロジェクトを選択確定します（18ページ「再生するプロジェクト/ファイルを選ぶ」参照）。**
プロジェクト/ファイル編集画面が表示されます。

**3. プロジェクト/ファイル編集画面から "Mark List" をP-ダイヤルで選択確定します。**
マーク・リスト（Mark List）画面が表示されます。

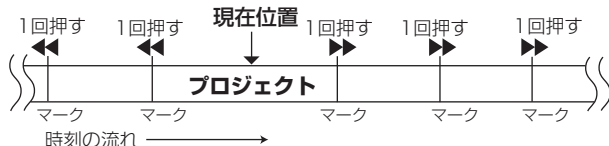
### マークを使った移動確認

**1. メニュー・ボタンを押して、メニュー・リスト（MENU）画面から "PLAY MODE" をP-ダイヤルで選択確定します。**
再生方法選択（PLAY MODE）画面が表示されます。

**2. P-ダイヤルで再生方法 "Current Proj/File" を選択確定します。**

**3. メニュー・ボタンを押して、メニュー・リスト（MENU）画面から "LIBRARY" をP-ダイヤルで選択確定します。**
ライブラリー選択（LIBRARY）画面が表示されます。

4. **マークが登録してあるプロジェクトを選択確定します。**
マークを登録した時刻に移動します。

**ディスプレイの画面に関係なく、再生中に早送り、早戻しボタンを押すと、前後のマークを登録した時刻に移動します。**

再生モードに "Current Proj/File" (→P.31) 以外を選んでいるときは、早送り、早戻しボタンを使ったマークの移動はできません。

## マークの編集

マーク・リスト(Mark List)画面の時刻を変更、マークの削除を行います。

プロテクトがオンになっているプロジェクトのマークも編集できますが、別のプロジェクトを選択したり、電源をオフにすると編集前の状態に戻ります。

1. **マーク・リスト(Mark List)画面から編集するマークをP-ダイヤルで選択確定します。**
マーク編集選択(Mark Edit)画面が表示されます。
マーク・リスト(Mark List)画面に戻るときは、メニュー・ボタンを押し(または、画面の "<-Back" をP-ダイヤルで選択確定し)ます。

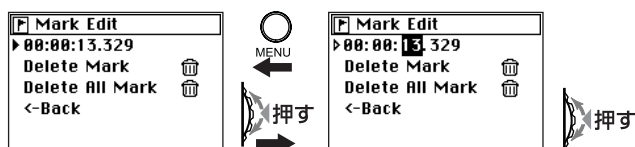
2. **編集内容をP-ダイヤルで選択確定します。**

マーク編集選択(Mark Edit)画面

### マークの時刻の編集

1. **時刻をP-ダイヤルで選択確定すると、マーク時刻編集になります。**
このとき選択アイコンが、"▶" から "▷" に変わります。

2. **P-ダイヤルを押す度に、反転表示の桁が移動します。**
最後の桁が反転表示のときにP-ダイヤルを押すと、時刻の編集から一度抜けますが、もう一度P-ダイヤルを押すと時刻の編集に戻ります。

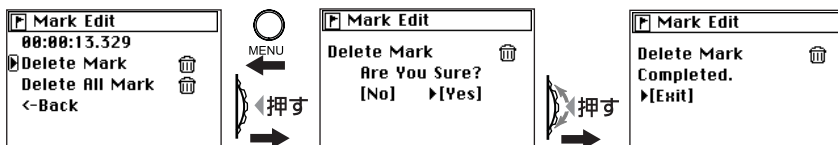
3. **反転表示の桁を変更するときは、P-ダイヤルを回して値を選択、押して確定します。**
これを繰り返し時刻を変更します。

変更が終わったらP-ダイヤルを何度か押して、マーク編集選択（Mark Edit）画面に戻ります。

## マークの削除（Delete Mark）

1. “Delete Mark” をP-ダイヤルで選択確定すると、削除の確認画面が現れます。

2. [Yes]をP-ダイヤルで選択確定します。
   削除しない場合は、[No]をP-ダイヤルで選択確定する（または、メニュー・ボタンを押す）と、マーク編集選択（Mark Edit）画面に戻ります。

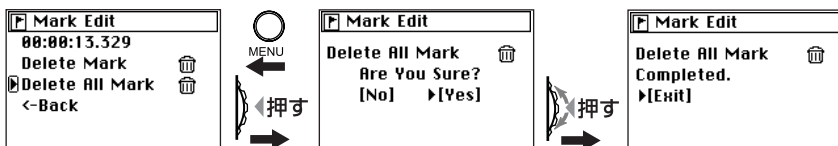
3. 画面に “Working...” が表示され削除が始まり、終わると完了表示 “Completed” が表示されます。

4. P-ダイヤル（または、メニュー・ボタン）を押して、マーク・リスト（Mark List）画面に戻ります。

## マークの全削除（Delete All Mark）

1. “Delete All Mark” をP-ダイヤルで選択確定すると、全削除の確認画面が現れます。

2. [Yes]をP-ダイヤルで選択確定します。
   削除しない場合は、[No]をP-ダイヤルで選択確定する（または、メニュー・ボタンを押す）と、マーク編集選択（Mark Edit）画面に戻ります。

3. 画面に “Working...” が表示され全削除が始まり、終わると完了表示 “Completed” が表示されます。

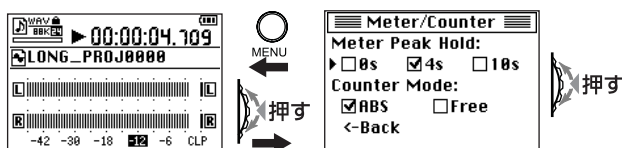
4. P-ダイヤル（または、メニュー・ボタン）を押して、マーク・リスト（Mark List）画面に戻ります。

5. マークがすべて削除をされているのを確認したら、メニュー・ボタンを押して、プロジェクト/ファイル編集画面に戻ります。

# 8. こんなときは（全般）

## メーターのピーク・ホールドやカウンターの表示を変えたい

**1. レベル・メーター画面が表示されているときに、P-ダイヤルを押します。**
メーター/カウンター（Meter/Counter）画面が表示されます。

**2. P-ダイヤルで “Meter Peak Hold”（ピーク表示保持時間）を選択確定します。**
時間のチェック・ボックス（0秒、4秒、10秒）にチェックがつきます。

**3. P-ダイヤルで “Counter Mode”（カウンター表示モード）を選択確定します。**
モードのチェック・ボックスにチェックがつきます。
ABS ：ファイルごとの録音開始位置を0にした、絶対時間での表示を行います。
Free ：HDDの残り容量から計算した、現在のファイル・フォーマット（→p.36）で録音可能な残り時間を表示します。

**4. 設定が終わったら、メニュー・ボタンを押してレベル・メーター画面に戻ります。**
画面の “<- Back” をP-ダイヤルで選択確定して戻ることもできます。

## プロジェクト / ファイルの名前を変える

文字数は最大16文字で、使用できる文字はアルファベットの大文字A～Z、小文字a～z、数字0～9と下記の記号になります。

| ! | # | $ | % | & | ' | ( | ) | + | , | - | ; | = | [ | ] | ^ | _ | ` | { | } | ~ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

プロテクトがオンになっているプロジェクトの名前は、変えることができません。

**1. メニュー・ボタンを押して、メニュー・リスト（MENU）画面から “LIBRARY” をP-ダイヤルで選択確定します。**
ライブラリー選択（LIBRARY）画面が表示されます。

2. P-ダイヤルで名前を変更するプロジェクト/ファイルを選択確定します（18ページ「再生するプロジェクト/ファイルを選ぶ」参照）。

現在選んでいるプロジェクト/ファイルの名前を変更するときは、そのままP-ダイヤルを続けて2度押して確定します。

3. 選択確定したプロジェクト/ファイル名が上部に表示されたプロジェクト/ファイル編集画面が表示されます。

4. P-ダイヤルで "Rename" を選択確定します。

名前の編集画面が表示されます。

プロジェクト/ファイル編集画面

5. [◀]または[▶]を使って変更する文字位置（反転表示）にP-ダイヤルで選択確定します。

6. 文字が選択され反転表示になるので、P-ダイヤルで変更する文字を選択確定します。

[DEL]------選択反転文字が削除され左に詰まります。
[INS]-------変更する文字の位置（反転表示）の前にスペースを入れます。
[A/a]-------大文字、小文字、記号を切り替えます。
これを繰り返し名前を変更します。

7. 変更が終わったら、P-ダイヤルで[OK]を選択（反転表示）確定して、ファイル編集選択画面に戻ります。

P-ダイヤルで[CANCEL]を選択（反転表示）確定、プロジェクト/ファイル編集選択画面に戻ったときは名前の変更は無効になります。

## 電池の消費を抑えたい

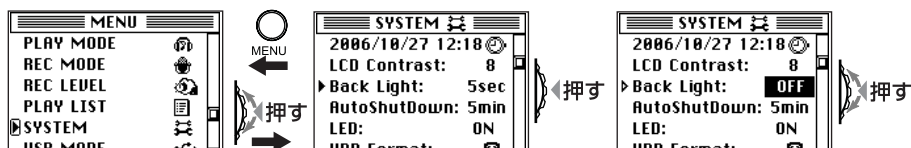
電池で使用するときに、不要な回路の設定をオフにすることで、電池の消費を押さえることができます。

### バックライトの設定

明るいところでオフにしたり、暗いところで操作した後、一定時間点灯後オフになる時間を設定します。

1. **メニュー・ボタンを押して、メニュー・リスト（MENU）画面から "SYSTEM" をP-ダイヤルで選択確定します。**
   システム設定（SYSTEM）画面が表示されます。

2. **P-ダイヤルで "Back Light" を選択確定します。**
   このとき選択アイコンが、"▶" から "▷" に変わり、値が反転表示になります。

3. **P-ダイヤルを回して消灯するまでの時間を選択します。**
   "OFF" の時は点灯しません。"ON" の時は常に点灯になります。
   オンに戻すときは、同様に操作して "ON" を選択します。

4. **P-ダイヤル（または、メニュー・ボタン）を押して、バックライトの設定を終わります。**
   このとき選択アイコンが、"▷" から "▶" に変わります。

## オート・シャットダウンの設定

録音や再生を終えて停止ボタンを押してから、一定時間何も操作しない場合には、自動的にシャットダウン画面になり、数秒後にオフになります。これにより、電源の切り忘れによる電池の消耗を押さえることができます。

**1. メニュー・ボタンを押して、メニュー・リスト（MENU）画面から“SYSTEM”をP-ダイヤルで選択確定します。**

システム設定（SYSTEM）画面が表示されます。

**2. P-ダイヤルで“AutoShutDown”を選択確定します。**

このとき選択アイコンが、“▶”から“▷”に変わり、設定が反転表示になります。

**3. P-ダイヤルを回してオフになるまでの時間を選択します。**

“OFF”の時は常にオンになり、オート・シャットダウンを行いません。

**4. P-ダイヤル（または、メニュー・ボタン）を押して、オート・シャットダウンの設定を終わります。**

このとき選択アイコンが、“▷”から“▶”に変わります。

## LEDの設定

通常は録音LEDが点灯する設定になっていますが、点灯しない設定にすることで電池の消費を押さえることができます。

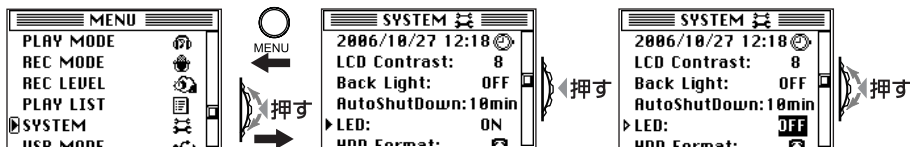
**1. メニュー・ボタンを押して、メニュー・リスト（MENU）画面から“SYSTEM”をP-ダイヤルで選択確定します。**

システム設定（SYSTEM）画面が表示されます。

**2. P-ダイヤルで“LED”を選択確定します。**

このとき選択アイコンが、“▶”から“▷”に変わり、設定が反転表示になります。

**3. P-ダイヤルを回して“OFF”を選択します。**

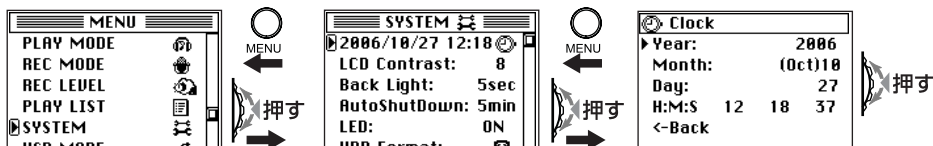
オンに戻すときは、同様に操作して“ON”を選択します。

**4. P-ダイヤル（または、メニュー・ボタン）を押して、LEDの設定を終わります。**

このとき選択アイコンが、“▷”から“▶”に変わります。

## 日時の設定をする

内蔵時計を合わせます。

1. **メニュー・ボタンを押して、メニュー・リスト（MENU）画面から“SYSTEM”をP-ダイヤルで選択確定します。**
   システム設定（SYSTEM）画面が表示されます。

2. **P-ダイヤルで、上段の日時表示を選択確定します。**
   日時設定（Clock）画面が表示されます。

3. **P-ダイヤルで“Year”(年)を選択確定します。**
   このとき選択アイコンが、“▶”から“▷”に変わり、年表示が反転表示になります。

4. **P-ダイヤルを回して、年を選択してから、P-ダイヤル（または、メニュー・ボタン）を押し確定します。**
   このとき選択アイコンが、“▷”から“▶”に変わります。

5. **P-ダイヤルで同様に、“Month”(月)、“Day”(日)、“Hour”(時間)、“Minute”(分)、“Sec”(秒)を選択確定します。**

6. **設定が終わったら、メニュー・ボタンを押してシステム設定（SYSTEM）画面に戻ります。**
   また、画面の“<- Back”をP-ダイヤルで選択確定して戻ることもできます。

充電池で電源がオンできない状態のまま2〜3日放置すると、日時の設定はリセットされるので充電後、設定をしなおしてください。

設定中の時刻は進みません。

## プロジェクトを編集できないようにする

プロジェクトのプロテクト設定をします。

プロテクトされたプロジェクトはマーク設定の変更を行っても、別のプロジェクトを選択したり、電源をオフにすると元の設定に戻ります。プロテクトされたプロジェクトは、レベル・メーター画面のプロジェクト/ファイルの情報の欄(一番上の段)に鍵マークが表示されます。

note 本機以外で録音したオーディオ・ファイル（AUDIOフォルダ内）にプロテクトをかけることはできません。

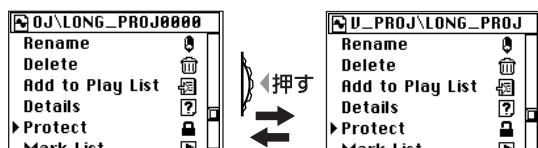
**1. メニュー・ボタンを押して、メニュー・リスト（MENU）画面から "LIBRARY" をP-ダイヤルで選択確定します。**

ライブラリー選択（LIBRARY）画面が表示されます。

**2. P-ダイヤルでプロテクト設定をするプロジェクトを選択確定します（18ページ「再生するプロジェクト/ファイルを選ぶ」参照）。**

現在選んでいるプロジェクトのプロテクト設定をするときは、そのままP-ダイヤルを続けて2度押して確定します。

**3. 選択確定したプロジェクト名が上部に表示されたプロジェクト/ファイル編集画面が表示されます。**

**4. P-ダイヤルを回して選択アイコンを "Protect" に合わせます。**

**5. P-ダイヤルを押すたびに、プロジェクトの保護（🔒）、保護解除（🔓）を繰り返します。**

**6. 設定が終わったら、メニュー・ボタンを押してライブラリー選択（LIBRARY）画面に戻ります。**

## プロジェクト / ファイルを削除する

ファイルの削除を行います。一度削除したファイルは、復旧することができませんのでよく確認をしてから削除を行ってください。

⚠ プロテクトがオンになっているプロジェクトは削除できません。

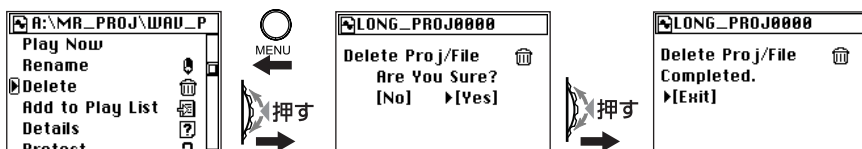
**1. メニュー・ボタンを押して、メニュー・リスト（MENU）画面から "LIBRARY" をP-ダイヤルで選択確定します。**

ライブラリー選択（LIBRARY）画面が表示されます。

**2. P-ダイヤルで削除するプロジェクト/ファイルを選択確定します（18ページ「再生するプロジェクト/ファイルを選ぶ」参照）。**

現在選んでいるプロジェクト/ファイルを削除するときは、そのままP-ダイヤルを続けて2度押して確定します。

3. 選択確定したプロジェクト/ファイル名が上部に表示されたプロジェクト/ファイル編集画面が表示されます。

4. P-ダイヤルで “Delete” を選択確定します。
削除の確認画面が表示されます。

5. [Yes]をP-ダイヤルで選択確定します。
削除しない場合は、[No]をP-ダイヤルで選択確定する（または、メニュー・ボタンを押す）と、ファイル編集画面に戻ります。

6. 画面に “Working...” が表示され削除が始まり、終わると完了表示 “Completed” が表示されます。

7. P-ダイヤル（または、メニュー・ボタン）を押して、ライブラリー選択（LIBRARY）画面に戻ります。

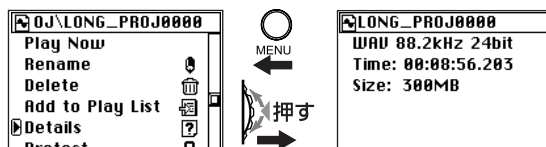
## プロジェクト / ファイルの詳細を知りたい

プロジェクト/ファイルの詳細情報を表示します。オーディオ・フォーマット、曲時間、ファイル・サイズ（容量）が表示されます。

1. メニュー・ボタンを押して、メニュー・リスト（MENU）画面から “LIBRARY” をP-ダイヤルで選択確定します。
ライブラリー選択（LIBRARY）画面が表示されます。

2. P-ダイヤルで詳細情報を確認するプロジェクト/ファイルを選択確定します（18ページ「再生するプロジェクト/ファイルを選ぶ」参照）。
現在選んでいるプロジェクト/ファイルの詳細情報を確認するときは、そのままP-ダイヤルを続けて2度押して確定します。

3. 選択確定したファイル名が上部に表示されたファイル編集画面が表示されます。

4. P-ダイヤルで “Details” を選択確定します。
プロジェクト/ファイルの詳細が表示されます。

5. 確認が終わったら、メニュー・ボタンを押してプロジェクト/ファイル編集画面に戻ります。

# そのほかの機能

## 再生モード

本機には、再生モードが3つと、シャッフル、リピート再生の設定があります。
このモードはメニュー・リスト(MENU)画面の、"PLAY MODE"で設定します。

### Current Proj/File(1 プロジェクト / ファイルだけ再生)

選んだ1プロジェクト/ファイルだけを再生します(18ページ「再生するプロジェクト/ファイルを選ぶ」参照)。
選んだファイルの再生が終わると、自動的に停止します。

note 再生時にマークを使った移動(→p.21)をすることができるのは、このモードだけです。

### Current Folder(フォルダ内再生)

選んでいるプロジェクト/ファイルが、含まれているフォルダ内のプロジェクト/ファイルを、ライブラリー選択画面のリストの表示順で再生します。
フォルダ内のプロジェクト/ファイルをすべての再生が終わると、自動的に停止します。

### PlayList(リストに沿った再生)

作成したプレイ・リスト(→p.33)に従って再生します。
プレイ・リストの最後まで再生が終わると自動的に停止します。

### Shuffle(シャッフル再生)

プロジェクト/ファイルの再生順番をシャッフルして(差し替えて)再生します。
一通り再生が終わると自動的にシャッフルして再生を続けます。また、停止ボタンを押した後、再生ボタンを押すと、同じプロジェクト/ファイルの先頭から続きを再生します。
この設定は、"Current Folder"、"PlayList"の再生モードで有効です。

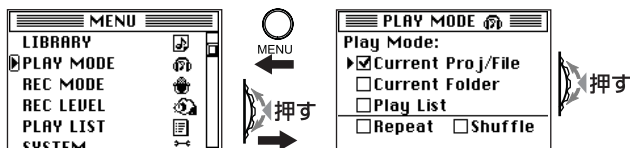
note "Shuffle"を有効にすると、"Repeat"は無効になります。また、"Repeat"を有効にすると"Shuffle"は無効になります。

### Repeat(リピート再生)

リピート(繰り返し)再生をするときに選びます。この設定は、すべての再生モードで有効で、停止ボタンを押すまで、選んだモードで再生を繰り返します。

note "Repeat"を有効にすると"Shuffle"は無効になります。また、"Shuffle"を有効にすると、"Repeat"は無効になります。

1. **メニュー・ボタンを押して、メニュー・リスト（MENU）画面から "PLAY MODE" をP-ダイヤルで選択確定します。**
   再生方法選択（PLAY MODE）画面が表示されます。

2. **P-ダイヤルで再生方法を選択確定します。**
   選択確定した再生方法のチェック・ボックスにチェックが入ります。

3. **シャッフル再生するときは、"Shuffle" のチェック・ボックスにチェックを入れます。**
   再生モードが "Current Proj/File" のときは、チェックが入っても無効になります

4. **繰り返し再生するときは、"Repeat" のチェック・ボックスにチェックを入れます。**

5. **メニュー・ボタンを押してメニュー・リスト（MENU）画面に戻ります。**

6. **再生ボタンを押すと、選んだモードで再生を始めます。**

# プレイ・リスト（PLAY LIST）

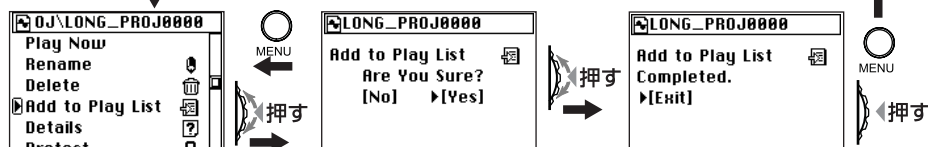
## プレイ・リストの作成

プレイ･リストを作成します。ここで作られたプレイ･リストは、再生モードに“PlayList”を選択すると、リストに沿った順番でプロジェクト/ファイルの再生が行われます。
プレイ･リストには、最大100個まで登録することができます。

1. **メニュー・ボタンを押して、メニュー・リスト（MENU）画面から“LIBRARY”をP-ダイヤルで選択確定します。**
   ライブラリー選択（LIBRARY）画面が表示されます。

2. **P-ダイヤルでプレイ・リストに加えるプロジェクト/ファイルを選択確定します。**

3. **選択確定したプロジェクト/ファイル名が、上部に表示されたプロジェクト/ファイル編集画面が表示されます。**

4. **P-ダイヤルを回して、選択アイコンを“Add to Play List”に合わせます。**

5. **P-ダイヤルを押すと、“Add to Play List Are you sure?”が表示されます。**

6. **[Yes]をP-ダイヤルで選択確定します。**
   加えない場合は、[No]をP-ダイヤルで選択確定する（または、メニュー･ボタンを押す）と、ファイル編集画面に戻ります。

7. **画面に“Working...”が表示され、追加が終わると完了表示“Completed”が表示されます。**
   追加したプロジェクト/ファイルは、プレイ･リストの一番最後に追加されます。順番を変更したい場合は、34ページ「プレイ･リストの編集」をご覧ください。

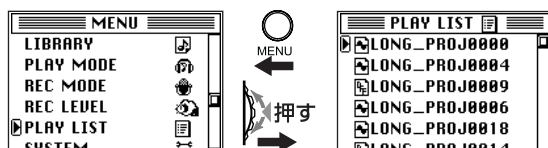
8. **P-ダイヤル押し（または、メニュー・ボタンを押し）て、プロジェクト/ファイル編集画面に戻ります。**

9. **続けてプロジェクト/ファイルを加えるときは、メニュー・ボタンを押して、操作2.から8.を繰り返してプレイ・リストを作成します。**

一度作成したプレイ･リストに新たにプロジェクト/ファイルを加えるときも、同様の操作で行います。

## プレイ・リストの確認

登録されたプレイ･リストを確認します。なお、プレイ･リストを編集するときはこの画面から編集を行います。

メニュー･ボタンを押して、メニュー･リスト（MENU）画面から “PLAY LIST” をP-ダイヤルで選択確定します。
プレイ･リスト（PLAY LIST）画面が表示されます。

## プレイ・リストの編集

プレイ･リスト（PLAY LIST）画面から、編集するファイルを選び、編集する内容を選びます。

### Play Now

リストのプロジェクト/ファイルを選び、再生を始めます。

**1. プレイ･リスト（PLAY LIST）画面のとき、P-ダイヤルで順番を変更するプロジェクト/ファイルを選択確定します。**

**2. 選択確定したプロジェクト/ファイル名が上部に表示されたプレイ･リスト編集画面が表示されます。**

**3. P-ダイヤルで “PlayNow” を選択確定すると、上部に表示されたプロジェクト/ファイルの再生を始めます。**

プレイ･リスト画面で、選択アイコンがついているプロジェクト/ファイルを、再生ボタンを押して再生を始めることもできます。

### Change Order

リストのプロジェクト/ファイルの順番の入れ替えを行います。

**1. プレイ･リスト（PLAY LIST）画面のとき、P-ダイヤルで順番を変更するプロジェクト/ファイルを選択確定します。**

**2. 選択確定したプロジェクト/ファイル名が上部に表示されたプレイ･リスト編集画面が表示されます。**

**3. P-ダイヤルで “Change Order” を選択確定します。**

4. 移動アイコンのついたプレイ・リスト（PLAY LIST）画面が表示されます。

5. P-ダイヤルを回して希望する順番に移動し、確定します。
   順番の入れ替わったプレイ・リスト（PLAY LIST）画面が表示されます。

note 確定する前に、メニュー・ボタンを押すと、プレイ・リスト編集画面に戻ります。

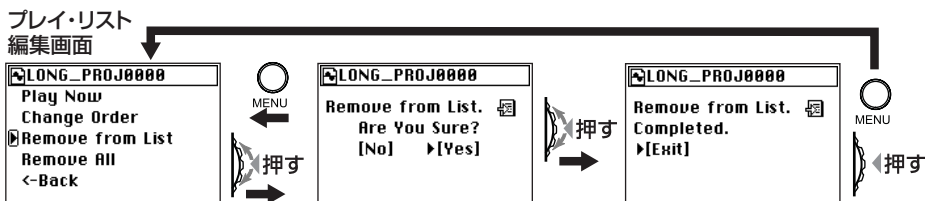
## Remove from List

選択したプロジェクト/ファイルをプレイ・リストから削除します。

note プロジェクト/ファイル自体は削除されません。再度プレイ・リストに登録したい場合には、プレイ・リストの作成（Add to Play List）を行います。

1. プレイ・リスト（PLAY LIST）画面のとき、P-ダイヤルで削除するプロジェクト/ファイルを選択確定します。

2. 選択確定したプロジェクト/ファイル名が、上部に表示されたプレイ・リスト編集画面が表示されます。

3. P-ダイヤルで "Remove from List" を選択確定します。

4. 画面に "Remove from List. Are You Sure?" とメッセージが表示されます。

5. [Yes]をP-ダイヤルで選択確定します。
   削除しない場合は、[No]をP-ダイヤルで選択確定する（または、メニュー・ボタンを押す）と、プレイ・リスト編集画面に戻ります。

6. 画面に "Working..." が表示され、削除が終わると完了表示 "Completed" が表示されます。

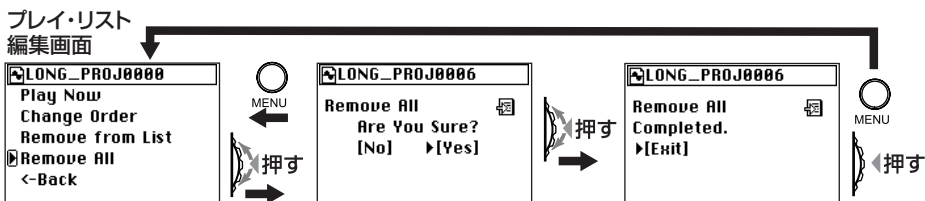
7. P-ダイヤル押し（または、メニュー・ボタンを押し）て、プレイ・リスト編集画面に戻ります。

8. 続けてプロジェクト/ファイルを削除するときは、メニュー・ボタンを押して、操作1.から7.を繰り返します。

### Remove All

プレイ·リストからすべてのプロジェクト/ファイルを削除します。

note プロジェクト/ファイル自体は削除されません。

1. プレイ・リスト(PLAY LIST)画面のとき、P-ダイヤルで任意のプロジェクト/ファイルを選択確定します。
2. プレイ・リスト編集画面が表示されます。
3. P-ダイヤルで“Remove All”を選択確定します。
4. 画面に“Remove All. Are you sure?”とメッセージが表示されます。

5. [Yes]をP-ダイヤルで選択確定します。
   実行しない場合は、[No]をP-ダイヤルで選択確定する(または、メニュー·ボタンを押す)と、プレイ·リスト編集画面に戻ります。
6. 画面に“Working...”が表示され、削除が終わると完了表示“Completed”が表示されます。
7. P-ダイヤル押し(または、メニュー・ボタンを押し)て、プレイ・リスト画面に戻ります。
8. リストがすべて削除をされているのを確認したら、メニュー・ボタンを押して、メニュー・リスト画面に戻ります。

# 録音モード

録音の様々な設定を行います。
メニュー·ボタンを押して、メニュー·リスト(MENU)画面から“REC MODE”をP-ダイヤルで選択確定します。
録音モード(REC MODE)画面から、それぞれの設定を行います。

## プロジェクトの録音フォーマット (New Project Type)

### WAV (BWF)

リニアPCMの非圧縮マルチビットのオーディオ·ファイル·フォーマットです。後述のWav Formatでサンプリング周波数/ビットレートを選択します。

Wave File Format (拡張子.wav)の略でデジタル・オーディオ用のフォーマットですが、放送用音声フォーマットBroadcast Wave Format (拡張子.wav)と互換性を持たせています。
サンプリング周波数/ビットは、大きい方がより高音質に録音することができますが、より多くのハードディスク容量が必要になります。

### DFF(DSDIFF )

SACD(スーパー・オーディオCD)製作用のプロ・オーディオ機器で広く採用されている1ビットのオーディオ・ファイル・フォーマットです。
Direct Stream Digital Interchange File Format (拡張子.dff)の略です。

### DSF

ソニー製パーソナル・コンピューター「VAIO (Sound Reality搭載モデル)」で採用されている1ビットのオーディオ・ファイル・フォーマットです。
DSD Stream File (拡張子.dsf)の略です。

### WSD

「1ビット・オーディオ・コンソーシアム」が策定した1ビットのオーディオ・ファイル・フォーマットです。
Wideband Single-bit Data(拡張子.wsd) の略です。

## WAV (BWF) 選択時の設定

WAV(BWF)を選択したときは、サンプリング周波数/ビットレートを選択します。サンプリング周波数が88.2kHz以上の場合は、すべてビットレートは24になります。

note DFF、DSF、WSDを選んだときのサンプリング周波数は、2.8224MHzになります。

## フォーマットと録音可能時間

ハードディスク容量1Gあたりの、録音時間の目安は下記の通りです。

| フォーマット | 録音可能時間 | フォーマット | 録音可能時間 |
|---|---|---|---|
| WAV　44.1kHz/16 | 90分 | WAV　176.4kHz/24 | 15分 |
| WAV　44.1kHz/24 | 60分 | WAV　192kHz/24 | 13分 |
| WAV　48kHz/16 | 85分 | DFF | 22分 |
| WAV　48kHz/24 | 55分 | DSF | 22分 |
| WAV　88.2kHz/24 | 30分 | WSD | 22分 |
| WAV　96kHz/24 | 25分 | | |

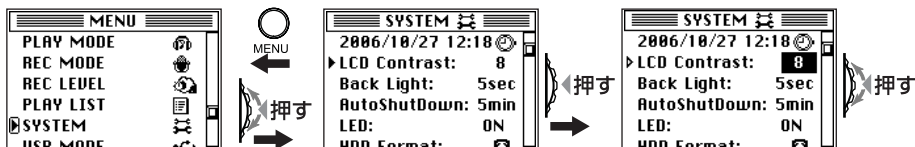
# システム設定（SYSTEM）

本機の様々なシステムの機能を設定します。
メニュー･ボタンを押して、メニュー･リスト（MENU）画面を表示して、“SYSTEM”をP-ダイヤルで選択確定後、それぞれの設定を行います。
なお、“Back Light”、“AutoShutDown”、“LED”の設定は26ページ「電池の消費を押さえたい」を、“Clock”は28ページ「日時の設定をする」をご覧ください。

## LCD コントラスト（LCD Contrast）

LCDのコントラストを設定します。数値を大きくすると黒表示部分が濃くなっていきます。見やすいように、値の設定をしてください。

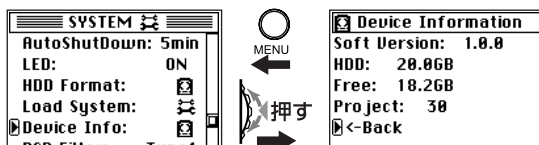
**1. システム設定（SYSTEM）画面で“LCDContrast”をP-ダイヤルで選択確定します。**
このとき選択アイコンが、“▶”から“▷”に変わり、設定値が反転表示になります。

**2. P-ダイヤルを回すと、値に合わせてコントラストが変化します。**

**3. 見やすいコントラストになったら、P-ダイヤル（または、メニュー･ボタン）を押して、設定を終わります。**
このとき選択アイコンが、“▷”から“▶”に変わります。

## デバイスの情報（Device Info）

本機のシステム･ソフトのバージョン、ハード･ディスクの総容量、空き容量、録音したプロジェクト/ファイル数が表示されます。

**1. システム設定（SYSTEM）画面で“Device Info”をP-ダイヤルで選択確定します。**
情報（Device Infomation）表示になります。

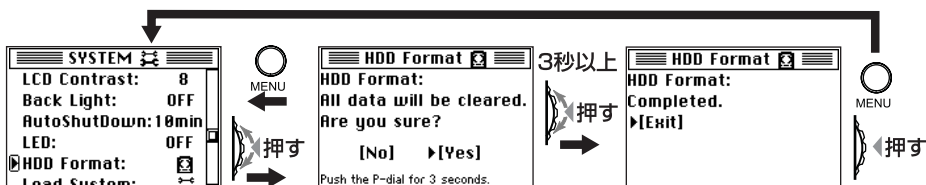
**2. 確認が終わったら、P-ダイヤル（または、メニュー･ボタン）を押して、システム設定（SYSTEM）画面に戻ります。**

## ハードディスクのフォーマット（Format）

本機のハードディスクをフォーマットします。
ハードディスクに保存したデータをすべて消去したいとき、"Drive Error." が頻繁に表示されるようになったときに行います。
フォーマットを実行すると、ハードディスク内のデータがすべて消去されますので、必ず内容を確認してから、必要なデータはバックアップをとった後で実行してください（→p.42「コンピューターとの連携」）。

⚠ フォーマット中に電源が切れるなどの不慮の事故が発生した場合、本機が正常に動作しなくなる可能性があります。この場合は、コルグお客様相談窓口にご相談ください。

1. **メニュー・ボタンを押して、メニュー・リスト（MENU）画面から "SYSTEM" をP-ダイヤルで選択確定します。**
   システム設定（SYSTEM）画面が表示されます。

2. **P-ダイヤルで "HDD Format" を選択確定します。**

3. **画面に "HDD Format : All data will be cleared. Are you sure?" とメッセージが表示されます。**

4. **[Yes]をP-ダイヤルで選択して、3秒以上押し続けます。**
   やめる場合は、[No]をP-ダイヤルで選択確定する（または、メニュー・ボタンを押す）と、システム設定（SYSTEM）画面に戻ります。

5. **画面に "Working..." が表示され、フォーマット終わると完了表示 "Completed" が表示されます。**

6. **P-ダイヤル（または、メニュー・ボタン）を押して、システム設定（SYSTEM）画面に戻ります。**

## システム・バージョン・アップ（Load System）

最新のシステム・ファイルは、コルグ・ホームページ（http://www.korg.co.jp）からコンピューターにダウンロードすることができます。詳しい手順については、コルグ・ホームページをご確認ください。

### バージョン・アップの準備

USBケーブルで本機とコンピューターを接続(42ページ「コンピューターとの連携」参照)し、ダウンロードしたシステム・ファイルを本機のハードディスクのルート上（またはフォルダ）にコピーします。

### バージョン・アップ手順

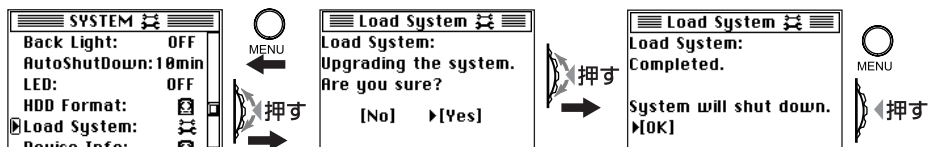
電源にACアダプターを使用しないと、エラー・メッセージが表示され、システムのロードを行うことができません。

システムのロード中に電源がオフになるなどの不慮の事故が発生した場合、本機が正常に動作しなくなる可能性があります。この場合は、コルグお客様相談窓口にご相談ください。

**1. メニュー・ボタンを押して、メニュー・リスト（MENU）画面から“SYSTEM”をP-ダイヤルで選択確定します。**

システム設定（SYSTEM）画面が表示されます。

**2. P-ダイヤルで“Load System”を選択確定します。**

**3. 画面に“Load System : Upgrading the system. Are you sure?”とメッセージが表示されます。**

**4. P-ダイヤルで[Yes]を選択確定します。**

画面には“Load System : Working...”が表示され、システム・ロードが始まります。

**5. システム・ロードが終了すると、“System will shut down. [OK]”が表示されます。**

**6. P-ダイヤルを押すと、本機がシャットダウンして電源がオフになります。**

**7. 電源ボタンを押し下げて、電源オンにすると、ロードを行ったシステムで起動します。**

バージョン・アップに失敗するとメッセージが表示されます。メッセージの内容を確認してください（→p.49「各種のメッセージ」）。

## DSD 出力フィルター設定（DSD Filter）

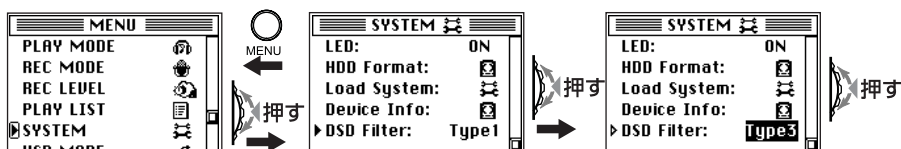
1bitプロジェクト/ファイルの再生時に、信号処理用フィルターのタイプを3種類の中から選択します。
初期設定は、Type1の標準のフィルターになっています。

Type1：通過帯域50kHz@−3.0dB（標準）、通過帯域100kHz@−18.0dB

Type2：通過帯域70kHz@−3.0dB、通過帯域100kHz@−9.8dB

Type3：通過帯域60kHz@−3.0dB、通過帯域100kHz@−17.0dB

1. **メニュー・ボタンを押して、メニュー・リスト（MENU）画面から"SYSTEM"をP-ダイヤルで選択確定します。**
   システム設定（SYSTEM）画面が表示されます。

2. **P-ダイヤルで"DSD Filter"を選択確定します。**
   このとき選択アイコンが、"▶"から"▷"に変わり、設定値が反転表示になります。

3. **P-ダイヤルを回してタイプを選択し、P-ダイヤル（または、メニュー・ボタン）を押して、設定を終わります。**
   このとき選択アイコンが、"▷"から"▶"に変わります。

# コンピューターとの連携

本機はUSB2.0のマスストレージクラスの機器として使うことができます。
このため、本機内のファイルをコンピューターに移したり、コンピューター内のファイル（WAV、DSDIFFなど）を取り込むことができます。

本機で認識できるオーディオ・ファイルには制限があります（→p.44）。

USBモードに入る時は、必ず付属のACアダプターをご使用下さい。

## USB モード

このモードに入ったときは、本機はコンピューターの外付けハードディスクとして認識されます。このモードの時は、レコーダーとして機能しません。

### USB モードへの入り方

1. コンピューターと本機を接続します。

Windowsの場合（Windows Me/2000以降）
本機のUSB端子と、コンピューターのUSB端子をUSBケーブルでつなぎます。コネクタの向きに注意し奥まで確実に差し込みます。

メニュー・ボタンを押して、メニュー・リスト（MENU）画面から "USB MODE" をP-ダイヤルで選択確定します。

note USBケーブルを接続したまま、本機の電源をオンにすると、USBモード画面で立ち上がります。

Macintoshの場合（Mac OS9.0.4以降）
本機の電源がオフの状態で、本機のUSB端子と、コンピューターのUSB端子をUSBケーブルでつなぎます。コネクタの向きに注意し奥まで確実に差し込みます。

本機の電源をオンにすると自動的に、USBモードに入ります。

2. USBモード（USB MODE）画面が表示されます。

この画面を表示しているときに、USBケーブルの接続を外したり、コンピューターの電源をオン/オフしないでください。

3. コンピューターに「ローカルディスク(*:)」(または、「名称未設定」）というドライブが追加されます。
初めて本機を接続した場合は、デバイス・ドライバのインストールが自動的に行われます。

4. コンピューターにデータを保存します。

3.で追加された「ローカルディスク(*:)」(または「名称未設定」)を開くと、本機のハードディスクの内容が表示されます。
必要なデータをコンピューター上にコピーします。また、コンピューター上にコピーしておいたデータを本機のハードディスクに書き込むことも可能です。

ファイルの転送中は、USBケーブルを外さないで下さい。

## USB モードからの抜け方

1. コンピューターから本機を外します。

**Windowsの場合(Windows Me/2000以降)**
コンピューターのタスクバー右側に表示されているアイコンを左クリックします。
表示されたメニューから「USB大容量記憶装置デバイス(ドライブ名)の停止」を左クリックします。
「"USB大容量記憶装置デバイス"は安全に取り外すことができます」というメッセージが表示されたことを確認します。WindowsMeの場合は、「USB大容量記憶装置デバイス」は「USBディスク」と表示されます。

**Macintoshの場合(Mac OS9.0.4以降)**
デスクトップ上のドライブを「ゴミ箱」に捨てるか、「ファイル」メニューの「片付ける」を選択します。

2. P-ダイヤル(または、メニュー・キー)を押して、メニュー・リスト(MENU)画面に戻ります。

メニュー・リスト(MENU)画面に戻ったら、USBケーブルを外します。

## ファイルのやり取り

本機で録音したファイルは、MR_PROJフォルダ内の録音フォーマット・フォルダごとに、プロジェクト・フォルダ(WAV、DFF、DSF、WSD)として自動生成されます。このフォルダをコンピューターにコピーすることでファイルのバックアップがとれます。
このフォルダの中に次の2つのファイルが入っています。

・ オーディオ・データ・ファイル(.wav/.dff/.dsf/.wsd):録音した音声のファイル

・ プロジェクト・データ・ファイル(.prj):プロテクト設定・マークの情報などのファイル

この2つのファイル名を変更しないでください。変更すると本機で再生することができなくなる場合があります。

バックアップをとったデータを読み込むときは、それぞれの録音フォーマット・フォルダにコピーをします。

コンピューターや他の機器で作成したオーディオ・データ(.wav/.dff/.dsf/.wsd)を本機にコピーするときは、AUDIOフォルダ内においてください。

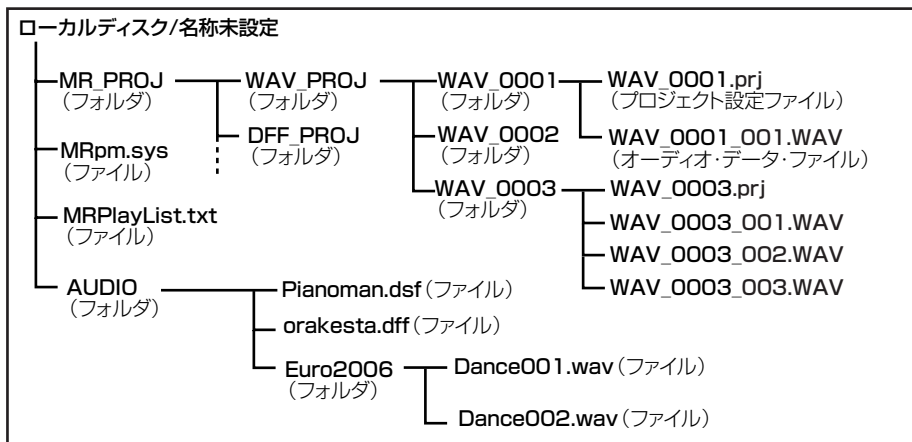
# ハードディスクの構成とファイル

## 対応オーディオ・ファイル

本機で設定できる録音フォーマット(→p.36)全般で、ステレオのファイル。

## 対応フォルダ、ファイル・ネーム

ファイル・システムFAT32形式、ロング・ファイル・ネーム対応、2バイト文字(日本語など)未対応

## フォルダ/ファイル構成

### MR_PROJフォルダ

本機で録音したフォーマットごとのフォルダを収納するフォルダです。

⚠ コンピューターでMR_PROJフォルダの削除や名前を変更しないでください。作成したファイルを認識できなくなります。

### WAV_PROJ、DFF_PROJ、DSF_PROJ、WSD_PROJフォルダ

フォーマットごとに、このフォルダ内にプロジェクト・フォルダが作成されます。
なお、本機で編集ができるのはこのフォルダ内の録音したファイルのみになります。

⚠ フォルダ内の認識できるプロジェクト・フォルダは、200個までです。200を超えたプロプロジェクト・フォルダは、USBモードでコンピューターと接続することで認識できます。

⚠ 作成されるプロジェクト・フォルダの最大数は、ハードディスクの残り容量が優先されます。

⚠ コンピューターでフォルダの削除や名前を変更しないでください。作成したプロジェクトを認識できなくなります。

⚠ コンピューターや他の機器で作成したオーディオ・データを、このプロジェクト・フォルダに入れても認識することはできません。

### MRpm.sys

システムで使用する設定ファイルです。必ず1つだけ必要なファイルです。移動、削除はしないで下さい。

⚠ このファイルの削除や名前を変更を絶対しないでください。

MRPlayList.txt

プレイ・リストの記述ファイルです。

このファイル名は変更しないでください。

WAV_0001フォルダ(プロジェクト・フォルダ)

録音したプロジェクト毎にできるフォルダです。数字部分が0001から順番のフォルダが作られます。

なお、録音フォーマットによって、先頭3文字のアルファベットが異なります。

本機の操作上は、このプロジェクト・フォルダが録音したプロジェクトとして認識され、プロジェクト名を変更すると、そのプロジェクト・フォルダ名を変更することになり、フォルダ内のプロジェクト設定ファイルの名前も自動的に変更されます。

WAV_0001

| フォーマット識別記号 | 録音番号 |
| --- | --- |
| WAV<br>DFF<br>DSF<br>WSD | 各フォーマットフォルダに録音した順番で0001から9999まで自動的に付加される番号 |

note コンピューターでプロジェクト・フォルダ名を変更したときは、そのフォルダ内のプロジェクト設定ファイル(***.prj)を、必ずしも同名ににする必要はありません。

WAV_0001フォルダ(プロジェクト・フォルダ)内のファイル

WAV_0001.prj(プロジェクト設定ファイル)

録音したプロジェクト毎に固有な設定(プロテクト、マーク情報など)の本機独自のファイルです。拡張子(.prj)が付いたファイルは、プロジェクト・フォルダに1つだけしか入れることができません。

WAV_0001_001.wav(オーディオ・データ・ファイル: wav)

ステレオのオーディオ・データ・ファイルです。拡張子(.wav)は録音フォーマットによって異なります。

拡張子より前の部分のファイル名は録音した時点で自動的に下記のようになります。

WAV_0001_001.wav

プロジェクト・ネーム(リネームしても、この部分は未反映)

ファイルサイズが1GB未満の時"1"
1GB以上の時"1"、"2"...と分割ファイル化される(最大99個)。
または、ファイルサイズが1GB未満の時でも録音時にポーズ(一時停止)すると分割ファイル化される。

録音フォーマット拡張子
WAV、BWF--- .wav
DSDIFF--------.dff
DSF------------- .dsf
WSD------------ .wsd

AUDIOフォルダ

コンピューターや他の機器で作成したオーディオ・データを収納するフォルダです。

本機で編集することはできませんが、プレイ・リストに登録して再生することはできます。なお、フォルダ内には最大4階層まで設定できますが、本機はこのフォルダ内のフォルダ、ファイルを合わせて最大200個までしか認識できません。

このフォルダ名は絶対変更しないでください。

# 録音したプロジェクトのオーディオ・ファイルの活用

本機で録音したプロジェクトのオーディオ・ファイルは、コンピューターにコピーをして、付属CDに含まれるオーディオ・フォーマット変換アプリケーション“AudioGate”を使って、フォーマットの変換、オーディオ・ファイルのエディットや分割、結合などを行うことができます。
詳しくは、付属CDからインストールの上、AudioGate取扱説明書（PDF）をご覧ください。

## AudioGateのインストール

### インストールCDの内容

同梱されているインストールCDには、以下のものが収められています。

□ フォーマット変換アプリケーション“AudioGate”
□ AudioGate取扱説明書（PDF）
□ ソフトウェア使用許諾契約（PDF）

**使用前のご注意**

- 本製品のソフトウェアの著作権は、すべて（株）コルグが所有しています。
- 本製品のソフトウェアの使用許諾契約が別途に付属されています。ソフトウェアをインストールする前に、必ずソフトウェア使用許諾契約をお読みください。ソフトウェアをインストールすると、この契約にご同意いただいたことになります。

### 動作環境

**Windows XP**

**対応OS**

Microsoft Windows XP Home Edition/Professional Edition Service Pack 1以降

**対応コンピューター**

CPU: Intel Pentium Ⅲ 1GHz以上
RAM: 256MB以上（512以上推奨）
Microsoft Windows XPの操作環境を満たすUSBポートを持ったコンピューター

**Mac OS X**

**対応OS**

Mac OS X 10.3.9以降

**対応コンピューター**

CPU: Apple G4 800MHz以上、Intel Mac対応
RAM: 256MB以上（512以上推奨）
Mac OS Xの動作環境を満たすUSBポートを持ったコンピューター

## Windows XP の場合

⚠ Windows XPへのソフトのインストールおよびアンインストールを行うためには、Administratorの管理者権限が必要です。詳しくはシステム管理者に相談してください。

**1. 付属のインストールCDを、コンピューターのCD-ROMドライブに挿入します。**
通常は、「AudioGate Application Installer」が自動的に起動します。
コンピューターの設定などで自動的に起動しない場合は、インストールCDの中の「KorgSetup.exe」をダブルクリックします。

**2. 画面の指示に従って、インストールしてください。**

**3. AudioGateのインストールが終わったら、インストーラーを終了します。**

## Mac OS X の場合

**1. 付属のインストールCDを、コンピューターのCD-ROMドライブに挿入します。**

**2. インストールCDの中のAudioGateのインストーラー（.pkg）をダブルクリックして、インストーラーを起動します。**

**3. 画面の指示に従って、インストールしてください。**

**4. AudioGateのインストールが終わったら、インストーラーを終了します。**

# 付録

## 故障かな？と思ったら

### 電源が入らない

□ ACアダプターは正しく接続されていますか?

□ 充電池の容量はありますか?

□ 電源ボタンを押し下げましましたか?

### ディスプレイに何も表示されない

□ コントラストの調整はできていますか?(→p.38)

### ディスプレイが暗い

□ バックライトの設定を “OFF” にしていませんか?(→p.26)

### 音が出ない

□ 本機または接続している機器の電源はオンになっていますか?(→p.12)

□ アンプやヘッドホンの接続は間違ってませんか?

### 再生音が聞こえない

□ ボリュームが “0” になっていませんか?

### 入力した音が聞こえない

□ 録音は正しく設定されてますか?

□ 録音レベルが上がっていますか?

□ 音声が入力されているかを確認してください。
レベル･メーター画面でレベル･メーターが振れていることを確認してください。

### 録音できない

□ 録音レベルが下がっていませんか?

□ 残りハードディスク容量が不足していませんか?
→ カウンター表示を “Free” にして、録音可能な時間を確認してください。(→p.24)

### 録音が途切れている

□ 録音中に本体に衝撃を与えませんでしたか?

□ 本機を連続した震動（モーターやベース･アンプ等）がある場所に設置して録音しませんでしたか?

### ボタンを押しても機能しない

□ 再生、録音などのレコーダーが動作している間は、ボタンが効きにくい場合があります。
　→ 効くまで、押したままにしてください。

□ 電源ボタンをHOLDにしていませんか?

## USB

### パソコン側が本機を認識しない

□ USBケーブルが正しく接続されていますか?(→p.42)
　→ ケーブルをもう一度接続し直してください。

### パソコン側から本機をうまく開放できない

□ パソコン側の搭載OSによって手順が異なります(→p.42)

### 接続時にソフトウェアやデバイス・ドライバのインストールを要求される

□ お使いのパソコンのOSのバージョンは、本機に対応したものですか?（→p.42）

# 各種のメッセージ

メッセージ･ダイアログは、P-ダイアルを押すと消えます。

## 実行メッセージ

### Completed

□ 各種実行を正常に終了しました。

### Working...

□ 各種作業を実行中です。表示が消えるまでしばらくお待ちください。

## エラー・メッセージ

### Cannot execute.

□ 現在この操作を行うことはできません。

### Can not execute Load System. Use AC Adaptor, Please.

□ ACアダプターが接続されてないので、システムのロードを実行できません。
　→ ACアダプターを接続してから、システムのロードを行ってください。

## Check Sum Error.

□ システムのロードに失敗しました。
　→ 初めからもう一度やり直してください。再度表示されるときには、お客様相談窓口にお問合せください。

## Disk too busy.

□ 録音、書き込みと削除を繰り返し行なうと、ハードディスク内に連続した空き領域が少なくなるため録音時にファイルが分割された領域に保存されてしまいます。これによりドライブへアクセスが遅くなったときに表示されます。
　→ 必要なファイルのバックアップを取り、フォーマット後にハードディスクに戻してください。または、不要なファイルを削除して空き領域を増やしてから、USBモードでコンピューターに接続してドライブの最適化を行ってください。空き領域の最適化を行うタイプのソフトウエアをお使いになる効果的です。

## Drive Error.

□ ドライブのアクセス中にエラーが発生しました。
　→ USBモードでコンピューターに接続してチェック・ドライブを行ってください。
　チェック・ドライブを実行してもエラー・メッセージが表示される場合は、ドライブのフォーマットを行ってください。

## Drive Full.

□ ドライブの残量が足りません。
　→ 不要なプロジェクト/ファイルを削除してください。

## Failed to write System File.

□ システム・バージョンアップに失敗しました。
　→ 故障の可能性があります。お客様相談窓口にお問い合わせください。

## Memory Full.

□ マークの登録が100個を超えました。登録できません。
　→ 不要マークを削除してから、登録を行ってください。

## Not supported file.

□ サポートされていないファイル形式です。
　→ 扱えるオーディオ・ファイルの形式を確認してください。

## Please enter name.

□ プロジェクト名がありません（スペースのみの名前）。
　→ プロジェクト名を正しく入力（1つ以上の文字、数字、記号）してください。

### Protected Project.

□ プロジェクトがプロテクト･オンになっているので、実行できません。
　→ プロジェクトのプロテクトをオフにしてください。

### Project Name Error. Delete illegal folder.

□ 同じプロジェクト/ファイル名が存在します。
　→ プロジェクト/ファイル名を変更してください。または、USBモードでプロジェクト/ファイルと同名のディレクトリを削除して下さい。

### System File Error.

□ “Load System” に必要なシステムファイルがないか、ファイルの長さが合いません。。
　→ システム･ファイルを確認してセーブし直してください。

### Time Limit.

□ 連続録音時間は6時間までです。これ以上連続して録音できません。

### Warning: Bad fragmentation. Should be optimized.

□ ハードディスク内に連続した空き領域が少ないため、録音を開始すると途中で"Disk too busy." が発生する可能性がある場合、録音待機状態になるときに表示されます。
通常は、空き容量が10分以上あるときは最低10分間の、10分以下のときはその分だけの連続空き領域が確保されています。
警告が表示されても必ずしも"Disk too busy." が発生するとは限りませんが、下記の対処をお勧めします。

→必要なファイルのバックアップを取り、フォーマット後にハードディスクに戻してください。
または、不要なファイルを削除して空き領域を増やしてから、USBモードでコンピューターに接続してドライブの最適化を行ってください。空き領域の最適化を行うタイプのソフトウエアをお使いになると効果的です。

## 確認メッセージ

### Info : ※※※※

□ ユーザーに伝える情報がある場合に表示されます。
　→ メニュー･ボタンまたは、P-ダイヤルを押して、操作を続けてください。

## 重大なエラー・メッセージ

### Fatal : ※※※※

□ 本体の不具合、故障などの場合に表示されます。
　→ このようなメッセージが出るときは、“※※※※” の文章をメモした上で、お客様相談窓口にお問い合わせください。

# 仕様

使用条件　：　+5～+35度（結露させないこと）

## ■主要各部

### <レコーダー部>

| | |
|---|---|
| トラック数 | ：2トラック |
| | ：同時再生2トラック/同時録音2トラック |
| 録音フォーマット | ：PCMオーディオ・フォーマット<br>WAV形式（拡張子.wav）、BWF準拠<br>44.1kHz@16/24bit、48kHz@16/24bit<br>88.2kHz@24bit、96kHz@24bit<br>176.4kHz@24bit、192kHz@24bit |
| | ：1bitオーディオ・フォーマット　2.8MHz@1bit<br>DSDIFF形式（拡張子.dff）、DSF（拡張子.dsf））、WSD（拡張子.wsd） |
| 録音時間 | ：最大30時間@44.1kHz/16bit（ハードディスク、20Gバイト時） |
| | ：最長連続録音5時間59分59秒999 |
| プロジェクト数 | ：各フォーマットごとに最大200まで認識 |
| マーク・ポイント | ：100ポイント/1プロジェクト　*マーク名無し |
| USB機能 | ：コンピュータにUSB2.0で接続、FAT32USB外部ドライブとして使用可 |
| ソング編集 | ：リネーム、デリート、プロテクト |

### <一般>

| | |
|---|---|
| ディスプレイ | ：160×104ドット、バックライト付きLCD |
| 電源 | ：付属ACアダプター、内蔵充電池（リチウム・イオン・ポリマ） |
| 消費電力 | ：2.15W |
| 外形寸法/重量 | ：64mm(W) x 120mm(D) x 24mm(H) /200g(　電池含む) |

## ■主要規格

| | |
|---|---|
| 周波数特性 | ：10Hz～20kHz ±1dB @Fs44.1kHz/48kHz<br>10Hz～40kHz ±1dB @Fs88.2kHz/96kHz/176.4kHz/192kHz<br>10Hz～100kHz (1bit ) |
| S/N | ：90dB（標準）　@IHF-A |
| THD+N | ：0.018%（標準）　20Hz～20kHz |
| A/D変換 | ：2.8224MHz(1bit)、24bit（PCM） |
| D/A変換 | ：2.8224MHz(1bit)、24bit（PCM） |

## <INPUT L、R>

コネクター　　　　　：ミニ・フォーン・ジャック
入力インピーダンス：10kΩ
規定レベル　　　　　：LINE　−6dBV、MIC　−39dBV
最大レベル　　　　　：LINE　+6dBV、MIC　−27dBV

## <OUT>

コネクター　　　　　：ステレオ・ミニ・フォーン・ジャック
規定レベル　　　　　：−6dBV
最大レベル　　　　　：+6dBV
負荷インピーダンス：10kΩ以上

## <PHONES>

コネクター　　　　　：ステレオ・ミニ・フォーン・ジャック
出力インピーダンス：16Ω以上
最大レベル　　　　　：40mW+40mW　@16Ω

## <USB>

コネクター　　　　　：ミニBタイプ
フォーマット　　　　：USB2.0準拠、USBマスストレージクラス
対応OS　　　　　　　：Windows Me、2000以降、
MacOS9.0.4以降

## ■付属品

：ACアダプター（充電器兼用）、ステレオ・マイク（CM-2M）、クリップ・スタンド、取扱説明書（本書）、キャリング・ケース、USBケーブル、インストールCD（オーディオ・ファイル変換アプリケーション“AudioGate”）

## ■ デモ・プロジェクト

Downtime

performed by Will Champlin
copyright Will Champlin 2006
www.willchamplin.com
www.myspace.com/willchamplin

※　製品の外観および仕様は予告なく変更することがあります。

# 索引

## メニュー・リスト画面

MENU



## プロジェクト / ライブラリー画面

LIBRARY



## メーター / カウンター画面

METER



## マーク・リスト画面

Mark List

# アフターサービス

■保証書

本製品には、保証書が添付されています。

お買い求めの際に、販売店が所定事項を記入いたしますので、「お買い上げ日」、「販売店」等の記入をご確認ください。記入がないものは無効となります。

なお、保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

■保証期間

お買い上げいただいた日より一年間です。

■保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

■保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品（電子回路などのように機能維持のために必要な部品）の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品（パネルなど）の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめサービス・センターへお問い合わせください。

■修理を依頼される前に

故障かな?とお思いになったら、まず取扱説明書をよくお読みのうえ、もう一度ご確認ください。それでも異常があるときは、サービス・センターへお問い合わせください。

■修理時のお願い

修理に出す際は、輸送時の損傷等を防ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

■ご質問、ご相談について

アフターサービスについてのご質問、ご相談は、サービス・センターへお問い合わせください。

商品のお取り扱いについてのご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

**WARNING!**

この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です

This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

株式会社コルグ

お客様相談窓口　　TEL03（3799）9086

● サービス・センター: 〒143-0001 東京都大田区東海5-4-1
明正大井5号営業所コルグ物流センター内
TEL 03（3799）9085



本社：〒206-0812 東京都稲城市矢野口4015-2
URL: http://www.korg.co.jp/



1902 CGH *Printed in Japan*